

2023 年 3 月期第 2 四半期 決算説明会 質疑応答の要旨

この質疑応答集は、11 月 24 日（木）に開催した決算説明会にてご出席の皆様からいただいたご質問を記録したものです。理解促進のために一部内容の加筆修正を行っております。

Q1.実施中の価格改定について、すべての対象製品が改訂後の価格に置き換わるタイミングはいつか、また原材料価格の高騰をどの程度転嫁した状態になるのか。

A1.工業品、EC、オフィスホームの各フィールドによってタイミングのバラツキがある。工業品は第 3 四半期中、EC とオフィスホームは第 4 四半期中には全て改定後後の価格が適用される見通しであり、2023 年度は全期間で改定後価格となる。原材料価格の高騰を販売価格に転嫁する割合としては、全社ベースで 6 割～7 割程度になる。

Q2. 訪日外国人旅行者によるロイヒツぼ膏TMのインバウンド需要について、上期末と直近の状況はどうか。

A2.上期末の時点ではほぼ動きが見られなかった。10 月以降に韓国からの訪日客が増加し、それと合わせて一部のインバウンド店舗への納入が見られるようになってきているが、店舗で在庫が回転しリピート注文をいただくような動きにはなっていない。中国からの往来が当面見込めない中であるが、韓国や台湾などからの旅行者によるインバウンド需要の増加に備えて、生産体制と在庫、営業の対応を行っていく。

Q3.海外事業が大きく伸長したが、国内と比べて収益性はどうか。

A3.国内同様に、ケアリーヴTMなどのメディカル製品が高くテープ製品が低い傾向にある。ただし和紙マスキングテープは国内工場で生産しており、工場の稼働率を上げることで収益に寄与している。

Q4.原材料価格の今後の動向はどのようにみているか。

A4.プラスチック・溶剤などの石化製品については、原油価格と連動して来期以降に下がる可能性があるが、紙・セロハンなどは複合的な要因で価格が決まるため、当面は現状の水準が続くとみている。

以 上